

日本ロシア文学会関東支部春季研究発表会

2014年6月7日(土)10:30～／埼玉大学教養学部会議室(2階)
京浜東北線「北浦和」ないし埼京線「南与野」下車後バス「埼玉大学行き」
(<http://www.saitama-u.ac.jp/koho/guide/map/accessmap.html>)

■プログラム

◇10:30-10:40 支部長挨拶

研究報告(修士論文の部)

- 10:40-11:10 竹内ナターシャ(早大院): ソログープ『光と影』: 影絵遊びとしての演劇—「変容」と「子供」のテーマ (司会: 中澤佳陽子)
- 11:10-11:40 林由貴(東大院): ブーニン亡命前散文における旅人表象の解釈—ベルジャーエフの世界観を手掛かりに (司会: 宮川絹代)
- 11:40-12:10 三浦領哉(早大院): セルゲイ・ラフマニノフのオペラ作品における作曲思想と作曲技法 (司会: 梅津紀雄)

昼食・総会(12:10-13:30)

- 13:30-14:00 泊野竜一(早大院): 《大審問官》における「長広舌と沈黙との対話」 (司会: 番場俊)
- 14:00-14:30 光井明日香(東外大院): ロシア語における性に関する一致についての記述的再検討 (司会: 堤正典)
- 14:30-15:00 佐山豪太(東外大院): 語形成におけるロシア語の派生への比重～派生を念頭に
おいたロシア語特有の語彙学習・語彙指導への示唆 (司会: 堤正典)
- 15:00-15:30 清沢紫織(筑波大院): 言語法にみるベラルーシ共和国の言語政策 (司会: 古賀義顕)

休憩(15:30-15:50)

研究報告(博士論文の部)

- 15:50-16:25 堀口大樹(東外大院): ラトヴィア語の動詞接頭辞付加—空間・時間・感情を表現する言語活動 (司会: 三谷恵子)
- 16:25-17:00 安達大輔(東大院): 痕跡を生き直す: ゴーゴリの記号システムにおける反省の諸問題 (司会: 佐々木寛)
- 17:00-17:35 井上暁子(東大院): 1980年以降のポーランド語文学におけるドイツ／
ポーランド国境地帯—移動作家の視点から (司会: 久山宏一)

◇17:35-17:45 閉会の辞

■18:00-20:00 懇親会(会費一般4000円、大学院生3000円)